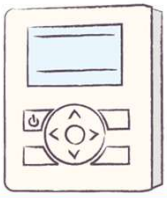
事業者の皆様

# 冬季の省エネ

以下のような省エネの取組によって、
光熱費や燃料費の削減効果が期待できます。

電力最終消費の7割が事業者による電気使用、石油消費の4割が事業者による燃料消費です。(注1)



## 暖房(注2)の省エネ対策

| | 省エネ効果 |
|---|---|
| ☑ 重ね着をするなどして、無理のない範囲で室内温度を下げる | 約3%(注3) |
| ☑ 使用していないエリア(会議室、休憩室、廊下等)は、空調を停止する | 約2% |



## 照明の省エネ対策

| | 省エネ効果 |
|---|---|
| ☑ 可能な範囲で執務室や店舗エリアの照明を間引きする。(省エネ効果は照明を半分程度間引きした際の数値) | 約8% |
| ☑ 使用していないエリア(会議室、休憩室、廊下等)は、消灯する | 約3% |

## エコドライブの実践(注4)



| | 燃費改善効果 |
|---|---|
| ☑ ふんわりアクセル(発進時は、緩やかに加速) | 約10% |
| ☑ 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転とする | 約2～6% |
| ☑ 減速時は早めにアクセルを離す | 約2% |

## 機器の省エネ対策



| | 省エネ効果 |
|---|---|
| ☑ 長時間離れるときは、OA 機器の電源を切るか、スタンバイモードにする | 約4% |

## 物流の効率化(注5)



| | |
|---|---|
| ☑ 荷物の積載効率を上げる | 燃料削減効果 約2% |
| ☑ 顧客に対し、宅配ロッカーや置き配などの多様な受取方法を働きかける | 宅配ロッカー等の利用率 約25% |

(注1) 石油消費の2割は、事業者による原料消費
出典:資源エネルギー庁総合エネルギー統計
(注2) 省エネ効果は電気使用量を基に算出していますが、ガス・石油についても同程度の効果が期待できます。
(注3) 暖房の使用時、無理のない範囲で室内温度を下げた場合
(注4) 出典:「エコドライブ10のすすめ」(エコドライブ普及連絡会)
(注5) 出典:デコ活 ウェブサイト「デコ活データベース」
https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/decokatsu_db/

経済産業省では、企業・家庭向けの省エネ支援を強化しています。
企業には省エネ設備への更新や省エネ診断、家庭には高効率給湯器の導入などを支援しています。詳細は「省エネポータルサイト」をご覧ください。

経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy

省エネポータルサイト 検索